

オリンピック・パラリンピックと人権・東京都シンポジウム 実施結果

資料 3

【日時・場所】 平成29年2月1日(水)14:00~16:30 都庁5階大会議場

【来場者】 約500名(一般都民(300名)、各局・区市町村(170名)、組織委員会(30名))

【目的】

- 「オリンピック・パラリンピックと人権」に焦点をあてたシンポジウムを、東京都として初めて開催する。
- ロンドン・リオ大会の関係者、国内パラリンピアンを招聘し、過去大会での取組事例や東京大会に向けた提言を得ることにより、今後の施策展開の参考とする。
- 一般都民、行政、企業など関係者だけでなく、国内外に幅広く発信を行うことにより人権尊重都市・東京をアピールし、人権のレガシー構築を着実に進める。

プログラム	分野	出演者		発言要旨
オープニング メッセージ	東京都知事 (主催者代表)	小池百合子		<ul style="list-style-type: none"> ・女性も男性も 子供も高齢者も、障害のある方も、またLGBTの方も、誰もが希望をもっていきいきと生活・活躍できる都市、多様性が尊重され、暖かく、優しさにあふれる都市。 それが私のめざすダイバーシティが実現した東京。 ・ダイバーシティの実現こそがオリンピック憲章の求める理念の実現に他ならない。
講演 I	ロンドン (2012年大会)	駐日英国大使館 首席公使 デイヴィッド エリス 氏		<ul style="list-style-type: none"> ・ロンドンでは一番重要な変革として、障害に対する一般の人の姿勢を変える、そして社会的包摂、ソーシャルインクルージョンを推進していくことを掲げた。 ・メディアの力(channel4が2012年・2016年に制作・放映したパラアスリート等を起用したCMを視聴)。 240万枚のパラリンピックのチケットがすべて完売。障害への見方が大きく変わるというレガシーが残った。
講演 II	リオ (2016年大会)	駐日ブラジル連邦共和国 大使館 首席公使 サルキスJ.B.サルキス 氏		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じた社会の包摂の促進ということを重視した。 ・ブラジルの持つ多元性とか多様性といった価値を知ってもらおうという契機としたいと考えた。 ・大会はレガシーとして私たちの国、私たちの考え方を考えることになった。大会にはそうした力がある。
講演 III	パラリンピアン (アスリート)	マセソン 美季 氏		<ul style="list-style-type: none"> ・大会を開催する都市では社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性に気づくことができる。 ・多様性を認めて共生社会を実現させるためには、違うものがあって当たり前という雰囲気づくりが大事。 そのためには積極的なコミュニケーションを図っていくことが不可欠。 ・大会の大成功と同じかそれ以上に、東京の街が大きく変革してくれることを切に願っている。
パネル ディスカッション (進行+ 講演者 I~III)	有識者 (人権分野)	(公財)人権教育啓発推進 センター理事長 横田 洋三 氏		<p>(ディスカッションテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちの社会における「バリア」とは何か。 <ul style="list-style-type: none"> ・東京におけるバリアは目に見えないもの。障害のある方も大会に参画できる仕組みをつくること(エリス) ・外国人へのバリア。社会の一員として東京の発展に貢献できる存在に(サルキス) 2. マインドセットを変えていくために有効なことは何か。 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者をマスメディアでどう報道するかということ。障がい者が目に見えるかたちになること(エリス) ・教育が重要。大人が持つ先入観を押付けず、子供たちに多様性とダイレクトにつながってほしい(マセソン) 3. 価値ある人権レガシーを残すために、私たちにできること。(メッセージ) <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードは柔軟性。何か1歩踏み出して行動に起こす、柔軟な心、柔軟な頭をもってほしい(マセソン) ・人種・言語・宗教…様々な違いがあるから私たちの生活が豊かになり、楽しくなる。違いを楽しむこと(横田)

(シンポジウム成果のフィードバックの取組)

▽ ニュースリリース配信(国内、海外(UK・USA))

▽ YouTubeでの動画配信(ダイジェスト映像)、ツイッターなどSNS発信